

助成事業でこんな成果があがっています

～「東日本大震災で被災された方等の支援」に関する事業～

被災地において、地元の複数の団体と連携し託児サービス付き子育てサロンを実施（NPO）

【助成事業の概要】

被災した子育て中の家庭のニーズを調査したうえで、個々の団体による単独活動では対応しきれない支援について、地元の子育て支援団体と連携しながら、未就学児童及び小中学生とその保護者を対象とした定期的な託児サロン、学習支援、遊び広場の実施などのさまざまな活動を行い、延べ1,000名を超える子育て家庭を支援しました。

【助成金の使途】

仮設住宅の居住者や在宅避難者へのニーズ調査、託児サロンでのイベント開催、学習支援などに利用。

【助成事業の成果】

子育て支援という枠組みのもと、事業者単体ではなかなか実施が難しい支援も、複数の団体が連携することによって、多種多様な子育て支援のサービスが提供できており、子どもの健全育成と自立した生活環境の向上に寄与しています。

また、一過性の支援ではなく、支援活動を街づくり活動、地域づくり活動につなげる意識も高く、被災地域のコミュニティの再生にも貢献しているといえます。



被災地のニーズに応じた生活支援を実施（NPO）

【助成事業の概要】

東日本大震災発災後、離島ということもあり行政の支援も遅れ、高齢化率50%を超える住民が多くが不便を強いられた中、震災ボランティアの活用等により、島の全世界を定期訪問しニーズに応じた生活支援を実施しました。

【助成金の使途】

孤立防止のための定期見回りや移動・買い物支援、茶話会サロンなどに利用。

【助成事業の成果】

本事業を通じて把握したニーズから、この地域に皆無であった介護事業所を設置しています。また、個々の生活支援だけでなく、行政や自治会などに声掛けをして話し合いの場を設けるなど、復興に向けたまちづくりも意識しており、地域に欠かせない存在となっています。



バスの運行を通じて避難先地域のコミュニティを再構築（NPO）

【助成事業の概要】

原発事故により散り散りに仮設住宅に避難した人々同士または避難先地域の住民との交流を図ることを目的として、バスによる複数の仮設住宅間の巡回や、サロンの運営により交流の場を提供することによって、避難者同士のコミュニティをつなぎ直し、また地域住民との新たなコミュニティを形成する事業。

【助成金の使途】

仮設住宅間のコミュニティバスの運行、各種サロンの運営や休耕地の活用などに利用。

【助成事業の成果】

コミュニティバスの運行について地元タクシー会社と連携したり、近隣の医科大学の協力を得てサロンで健康教室を開催するなど地域資源を効果的に活用し、より質の高い支援を実現しました。

また、住民自身が自らの課題を解決するための後押しとなることを意識して支援に当たったことで、避難者を主体とした新たな活動が芽生える等、事業の相乗効果も得られています。



仮設住宅等で暮らす被災者に傾聴活動を実施（NPO）

【助成事業の概要】

定期的に仮設住宅を訪問し、被災者に対して傾聴活動や生活相談等の心のケアを行うことにより、被災者のストレスを軽減し、孤独死や虐待などの防止を図る事業です。

【助成金の使途】

仮設住宅・被災地集会所での傾聴活動、支援者に対する傾聴スキルの研修などに利用。

【助成事業の成果】

質の高い傾聴活動を行うため訪問する支援員のスキル研修を行い、また被災者のニーズに応じた学習援助も実施するなど丁寧な支援を行った結果、支援を必要とする方との信頼関係を築くことができました。特に、地元の団体としてコミュニティに溶け込み、長期的に支援していくことを表明しながら支援に当たったことで、被災者に大きな安心感を与えているようです。

また、被災した住民が自ら支援員を希望するケースも増えており、住民主体の復興に向け、徐々に成果が出ていることが窺えます。

傾聴を通じて生活面でのさまざまな課題が浮き彫りになっていますが、丁寧な支援を実施した結果であるともいえ、今後も刻々と変わる被災地のニーズに対応した活動が期待される事業です。

